



道路ニュース

THE ROAD NEWS No. 608
令和2年7月号

発行所 全国道路利用者会議
〒100-0013
東京都千代田区霞ヶ関3-3-1
尚友会館6階
電話 03-3501-5611(代)
発行人 小林 勉
定価 20円(会員の購読料は会費に含む)

8月10日は「道の日」

新しい日常に対応するための当面の道路施策

国土交通省は、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大に対応するための当面の道路施策をまとめ、令和2年6月18日に公表した。ウィズコロナにおける今後の流行への備えとして、人との接触低減に資する自転車通勤・通学の促進、機能を維持することが不可欠な物流事業者が利用する休憩施設の環境整備などの取組を実施する。

また、同日には、社会資本整備審議会道路分科会基本政策部会の提言として、道路政策ビジョン「2040年、道路の景色が変わる」が大臣に手交された。本ビジョンを問題提起として、(ニューノーマル)や社会

して、道路利用者、企業や大学の意見・提案も頂きつつ、ポストコロナの新しい生活様式(ニューノーマル)や社会経済を支えるため、今後、ポストコロナの道路施策について検討していくとしている。

- ◇自転車通勤・通学の促進に関する当面の取組について
https://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_001328.html
- ◇休憩施設における駐車マスの拡充
https://www.c-nexco.co.jp/corporate/pressroom/news_release/4819.html
- ◇ダブル連結トラック用の駐車予約システムの導入
https://www.c-nexco.co.jp/corporate/pressroom/news_release/4818.html
- ◇新型コロナウイルス感染症の影響に対応するための沿道飲食店等の路上利用に伴う道路占用の取扱いについて
https://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_001324.html
- ◇2040年、道路の景色が変わる
<https://www.mlit.go.jp/road/vision/03-1.html>
- ◇道路政策ビジョン(道路局中堅職員の提言)
<https://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/content/001310306.pdf>
- ◇ビジョン「2040年、道路の景色が変わる」トップページ
<https://www.mlit.go.jp/road/vision/index.html>

経済を支えるため、今後、ポストコロナの道路施策についても検討を行う。

令和2年7月12日(日)16時 同時開通

三陸沿岸道路 宮古中央JCT~田老真崎海岸IC
宮古盛岡横断道路 宮古港IC~宮古中央IC

~ 三陸沿岸道路と宮古港がつながる ~

復興道路・復興支援道路

令和2年8月2日(日)15時 開通予定

東北中央自動車道 伊達桑折IC~桑折JCT

~ 東北自動車道と国道4号が東北中央自動車道により接続 ~

復興支援道路

道路(宮古中央JCT~田老真崎海岸IC)と復興支援道路(宮古盛岡横断道路(宮古港IC~宮古中央IC))が令和2年7月12日(日)に同時開通した。

【開通予定日】令和2年8月2日(日)15時

【開通区間】東北中央自動車道(伊達桑折IC~桑折JCT)延長2.0km

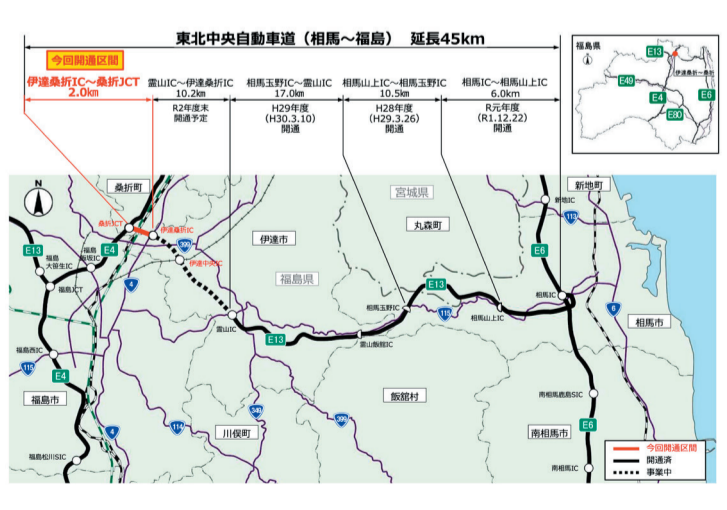
【開通による整備効果】地域産業の活性化を支援

福島の復興を支援する。復興支援道路(宮古盛岡横断道路)の整備により、三陸沿岸道路と宮古港が接続され、観光客のアクセスが向上し、沿道地域の活性化が期待される。

【開通による整備効果】物流効率化による地域産業を支援

岩手県の合板等用木材生産量は全国3位であり、宮古市では木材・木製品の製造品出荷額等が年々増加傾向にある(県内シェア約3割)。

宮古港周辺の木材加工会社では、県北地域からの原木と宮古港より搬入された輸入材を加工し、関東方面へ出荷している。



“道路総合システムサービス”企業

NICHIREKI

ニチレキ株式会社

東京都千代田区九段北4-3-29 TEL.03(3265)1511代表

相馬地方の観光地では、中通りや津方面などから多くの観光客が訪れている。福島地方の開通済み区間沿線の道の駅においても、開業時の予想を上回る来訪者数を記録している。

【開通による整備効果】災害時の代替性確保

開通区間に並行する国道45号では、平成23年3月の東日本大震災や令和元年10月の台風19号の影響により通行止めが発生した。

持木一茂常任理事が国土交通大臣表彰を受賞

令和2年度建設事業関係功労者等国土交通大臣表彰において、当会議より推薦をされた持木一茂氏が受賞された。

長年にわたり、当会議役員として道路整備促進に貢献し、建設事業の発展に寄与されたことが評価された。

持木一茂(もちきかずしげ)・昭和31年1月25日生(64歳)・全国道路利用者会議常任理事・石川県道路整備促進協会副会長・石川県能登町長

【開通による整備効果】広域観光の活性化を支援

東日本大震災により落ち込んだ相馬地方、福島地方の観光入込客数は、震災前の状況まで着実に回復している。

令和2年度「道路ふれあい月間」推進標語

『すずしさをやどて 笑み笑顔』